

令和元年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和元年10月31日（木）

地区 元中野町・旭町地区

会場 市民活動センター

<意見交換>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。

この意見交換の時間は、あらかじめお配りしております町内会からの要望に関する意見交換や、本日、御参加の皆様との市政に関する意見交換を中心に、最大8時をめぐりに進めてまいります。

意見交換を進めていく中で、町内全体に関わらない個人的な要望ですとか苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接担当者のほうにおつなぎをいたしますので、御了承ください。

また、発言の際には、挙手の上、マイクをお持ちいたします。お住まいの町名とお名前を述べてから、お一人1件ずつ、簡潔に発言をお願いしたいと思います。

もう既に2件、3件、もし準備されている方がいらっしゃいましたら、一度終わって、もし、また手が挙がらないようでしたら、再度、御指名させていただきたいと思います。

それでは、市政に期待すること、日頃、お気付きの点や御意見がある方は挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

前の列の男性の方、今、マイクをお持ちしますので。

◆市民 末広に住んでいます、■■■■と申します。

前のほうに若い方がいたんですけども、いなくなって、ちょっと残念なんです。実は、10月から保育料とかが無償化になりましたね。それで、それに講じて、その事業者が値上げをしたところがあるのかどうか。

ある市ではやっているという話を聞いたことがあります。その理由が、職員の給与のレベルアップですか、を考えているというんですが、それが、この市ではちゃんとやれるのかどうか、市でも見てほしいということです。

それと、もう一つはですね、食事代は個人負担という話を聞いていますが、今現在、小学校で食事代を払えないのが何人か出て、その食事代を納めている人が補完するという話を聞いたことがあります。今はどうか知りませんが、それが、今後、この保育所で、そういうことをされたら困ると思うので、その辺も、市のほうでは見てほしいと。

というのは、保育の人数を増やすために、市には多めに、多めという言い方はあれですが、実際の子供の人数を出していて、補助金をもらっていて、実際はそうじゃないということが、最近、ちょっとは違いますが、道内の市で発生していますので、その辺、きちっとしてほしいです。

これは、僕ら、年とっていますけども、若い人に非常に関係すると思います。残念ながら前の

人がいなくなったので、そう思いますので、その辺、やってほしい。

先ほどの値上げしたかどうかというのは、ちょっと、それは聞きたいと思います。

それから、先ほどの要望は、市でちゃんとやっていただきたいということです。

以上です。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎健康こども部次長 健康こども部の白川といいます。

保育の担当の課長が、きょうはちょっと来ておりませんので、代わりに答えさせていただきま
すけれども、まずは、保育料の値上げについて、便乗値上げということだと思いますけれども、
事前に、私どもも保育料については調査をさせていただいておりましたけれども、はっきりと私
の記憶では、そういう便乗値上げというのは、ちょっと私はあまり記憶にないんですが、そのこ
とは正確に、後から担当課長からお答えしたいと思います。ただ、保育料に関しては、きちっと
市のほうで把握をしているということだけお答えさせていただきます。

それから、副食費についてですね。これも、おっしゃられたように、今までは保育料の中に入
ってございましたけれども、これから、副食費は別になりますので、別の徴収という形になります。

その人数についてということは、入所している人の子供たちの状況というのは、必ず市のほう
で把握しております。ですから、今おっしゃられたような、本当はいないのに多く取っているこ
とですか。そういうような、じゃなくてですか。

◆市民 そうじゃなくて、その分は事業主が保護者からお金をもらうわけですね。そのときに、給食費
を払っていないのとか、そういうことがあると。その場合、給食費を納めない人のためにプール
したお金、全員が納めたプールしたお金からその分を払う。今の小学校がそれで、ボランティア
で行ったことがあるんですけど、ちょっと、ちょっとという感じがしたんですよ。

◎健康こども部次長 そうですか。実際には、実費徴収ということになりますので、必ず納めていただ
くんですが、その、滞納ということですね、きっと。滞納の扱いについては、それぞれの事業者
さんが請求をしていくということになりますが、まだ10月から始まったばかりで、現実、どう
いうふうになっているのか、ちょっとまだ正確な情報はつかめておりませんが、その滞納をどう
いうふうに対応していくか、ここは市のほうも助言していきたいと思いますので、今、御心配に
なられたようなことがないようにしていきたいと思います。

詳しい内容については、また後ほど、後日ですね、御連絡して、御報告したいと思いますので、
よろしくをお願いいたします。

○司会 それでは、後ほど確認させていただきたいと思います。

それでは、そのほかにいらっしゃいますでしょうか、どうぞ。

◆市民 どうもすみません。船見町の港北町内会の■■■■と申します。毎年、いろんなことで、いつも
発言させていただきまして、ありがとうございます。

まず、いろんなことをやっていただきまして、市の皆様には感謝いたしたいと思います。草刈
りから何から、非常にことしはみんなきれいにやっていただきました。どうもありがとうございます。

ですがですね、きょう来たのは、船見町でことし道路、線路側の道路のところでも交通事故があったんですよ。そして、一人の方が亡くなられちゃったんですけども、その交通事故の原因がやっぱりごみの問題と、それから、あとは路線がいわゆる抜けるようになっている。ちょうど船見町からJRを通して、ずっと市内に抜ける道路なんですけれども、あれを抜けると非常に早いです、確かにね。

ですけど、あそこ、確か40キロぐらいのはずなんだけど、みんな60、80で、どんどん通っていきますよね。ですから、それは今回出しちゃって、何とかしてほしいということなんですけども、なかなかやらないというのが本当なのと。それから、あそこはごみの捨てられる場所でもあるんですよ。今回のかたは、ごみを朝早くから拾ってまして、そして、そのごみを拾っている間に交通事故に遭っちゃったんですよ。

ですから、その辺のところも含めてなんですけど、一番私が感じたのは、053の日、10月20日の日にですね、私が[REDACTED]ですので、ずっとぐるっと回って、ごみをみんな拾い終わったと思って、そして、9時半か10時ぐらいに取りに来てほしいといって電話をかけたんですよ。11時ちょっと過ぎにですね、半ぐらいにあそこを回ったら、もう四つも大きな袋が捨ててあったんですよ。そして、それを私が拾ってきて、結局、またごみのほうと一緒にやったという感じがありますから、あの辺のところの問題なんですよ。

それと、もう一つは、夜、あそこは暗過ぎるんですよ。今、国鉄のほうのランプが一つ切れています。去年もそれを何とかしてほしいというんですけど、国鉄のほうとの何か、ごめんなさい、JRですね。JRのほうとの調整が付かないのか、そちらのランプが消えてまして、夜は真っ暗なんです、その一部が。その真っ暗なところ辺りがやっぱり捨てられるところでもありますし、また、危ないところでもあるので、あれは何とか調整して、あそこの電灯を早くつけていただきたいということをお願いしたいなと思います。

あと、船見町は、もう一つ、私有地、ここに人がいない私有地というのが案外あるんですよ。そして、そこにゴミがごっそり今回も投げてありまして、不法投棄してありまして、市の不法投棄の部署のほうには言っていて、何とかしてもらったんですけども、その辺のところをもっと早くできないかというのが、やはり船見町の人からのあれなんですけど、いわゆる本人がいない土地の持ち主がいる私有地というところが非常に荒れ果てていて、ゴミの捨て場になっているわけなんです。ですから、そういうところを今後、市のほうでどう考えていらっしゃるのか、ちょっと御意見をお聞きしたいなと思って、お願いを。

だけでも、よくやっていただいていますので、それについては感謝しております。どうもありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。それでは、回答をお願いいたします。

◎道路維持課長 私は道路維持課の小西と申します。いつも船見町の情報なり、道路の破損状況なりを教えていただいて、ありがとうございます。

今、事故の関係でですね、40キロ、それから、どのような対策なのかということなんですけども、実は警察と道路管理者の私たちと、それから安全安心関係の方々とですね、現地のほうを

警察と協議させていただいております。

警察のほうとしては、スピードをやっぱり抑制するにはどうしたらいいかということをし考えるということで、速度規制なり、測定なり、いろんなことも考えていきたいということで、警察のほうも考えていきたいと。

我々としても、道路管理者として少しでもですね、スピードの出ない方法はないかなということを含めて検討していきたいということなんですけども。実は、お話のとおり、40キロという規制がもうかかっている中を60だとかスピードを出して走るというですね、正直言ってマナーの問題だということも非常にありまして、警察としては、協議の中では、やはり、マナーの中でどう対応できるかというのを今後考えていきたいと思いますということでお話しはしておりますので、そこら辺の御理解を願いたいと思います。

◎安全安心生活課長 交通安全を担当しております、安全安心生活課の小泉と申します。よろしくお願いいたします。日頃、地域の皆様方には、さまざまな交通安全運動に御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

今の事故の関係、市道の船見1号線についてということですが、今、道路維持課長が申しましたように、事故後に道路管理者でありますとか、警察、それから、我々、安全安心のほうで道路の現場検証といいますか、道路診断を行いまして、警察のほうからもスピードに関する意見もありましたし、私どものほうからもスピードの取締まり等、そこは要請したところでございます。

更に注意喚起というところで、市道船見1号線について、「スピードダウン」ですとか「スピードを落とせ」みたいな看板を設置したところでございますので、その効果なんかも見ながら、また今後、すぐできる対応というのは町内会の皆さんとお話ししながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎ゼロごみ推進課長 環境衛生部ゼロごみ推進課の倉持と申します。日頃よりごみの減量と分別、リサイクルの推進に御協力いただきまして、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

それで、今、お話があったポイ捨てごみに対するごみ拾いの最中の痛ましい事故のお話と、それから、不法投棄のお話、2件あったというふうに思っております。

それで、ポイ捨てごみに関しましては、我々としまして、いろんな手を使ってといいますか、それをなくしたいというふうに考えておりますし、あと、それから、今、おっしゃっていただいたように、ごみ拾いの日に協力していただいて、ごみを拾っていただいた。その中で、道路だとかに出るような形で拾っていただいたということで、本当に大変申しわけなく思っております。

ポイ捨てごみについては、ポイ捨ての防止の看板だとか、そういったようなものを使って、今は対応しているというのが現状でございますし、あと、それから不法投棄については、これはおっしゃったように、土地の所有者、捨てた人が分からなければ、土地の所有者が責任を持つというようなことになっております。

我々については、そこら辺のところをですね、また、もう一度現場を確認させていただいて、更に何かできないかということと一緒に考えさせていただきたいというふうに思います。

なかなか不法投棄そのものになってくると、警察さんの対応というような形になります。捨てた人が限定できれば、我々のほうでも、まず、お話するというようなことも可能なんですけれども、なかなかそういった事例というのは多くないというのも現実でございます。

いずれにしても、ごみの行政に関して、非常に協力していただいている。その部分について、我々も何とかできないかというところは、今後も一緒になって考えさせていただきたいと思っておりますので、まずはそういうことで、ちょっときょうはお願いしたいと思っております。

◆**市民** よくやっていただいて、ありがたく思っているんですけども、どういうわけか知らないんですけど、ゼロごみの日の問題なんですけど、船見町だけの問題なのかどうかよく分からないんですけども、去年と、春もそうでしたし、夏、今も、今回もそうだったんですけども、ゼロごみの日の前、大体、二、三日前になると、不法投棄のようにごっそり捨てていく人がいるんですよね。それが、去年、春にみんな引っ張り出してきて、それを集めて持っていってもらうのに、ちょっと市のほうで不法投棄じゃないかと言って話合いになったことがあるんですけども、どういうわけか、見張っているつもりなんですけども、今回の場合もそうですけど、あれは、完全な事業ごみだと思えるんですよね。マットレスみたいなものが大量に捨ててあったのですね。それが、20日なのに、18日、17日の夜だと思えるんですよね、捨てていったのが。ああいうものはトラックか何かで来ない限り、絶対捨てられないと思うのに、捨てていってしまうし、そういうものをどういうふうに対応してもいいのか、我々としても非常に困るので、本当にどうしたらいいかなど毎年のようにあれなんですよね。

いや、うちらはきれいにするというふうには皆さんに言ってありますのでね、案外、簡単に言ってくるし、ただ、不法投棄については、今回、触らないでくださいということで、きっちり言ったものですから、そうしたら、今度は風で飛んでしましましてね、そして、ちょっと車の上に乗ったとか、何とかという話があって、ちょっと問題も起こったんですけども。ですから、特にここにはいない人たちとの間で、いない人の地主の方ですかね。持ち主の方との間での連絡が非常に遅くなってしまうので、対応もすごく遅くなっちゃうんですよね。だから、その辺を来年に向けてでいいですから、お願いしたいなと思いました。

◎**ゼロごみ推進課長** おっしゃるように、不法投棄に関しては、やっぱりそのままにしておいていただきたい。そうすることによって、対応が遅くなってしまう、全くそのとおりでというふうには我々としても思っております。

ただ、見つけたらすぐ連絡いただいて、我々もすぐ駆け付けるようにします。今の時点では、そういうような対応で。ただ、やっぱりこのままにしておきたくない。きれいな町をつくりたいという部分では、私もそのように思っておりますので、そこを何とかどういうふうにすればいいのかというのは、今後、考えさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

◎**市民生活課長** お世話になっております。町内会を担当しております市民生活課の野水と申します。

今、道路が暗いというようなお話をいただいておりますので、私どもは町内会さんと連携を図ってですね、防犯灯の設置等というようなことも可能でございますので、道路の管理をしております担当部局と一緒に現地を確認させていただいて、また、町内会さんと協議をして、安全な明る

さの確保というようなところ、御協力させていただきたいと思いますので、お願いいたします。

○司会 それでは、そのほかにございますか。

一番前の方。

◆市民 若草団地町内会の■■■■です。

今、平成26年に新しく建てた市営住宅に住んでいる者なんですけれども、当初から鍵渡しで注意があったんですけども、一応、犬を飼ってましてですね、私のところに相談に来まして、それで「駄目ですよ」というのを、前にもこういうことで、まちかどミーティングで質問したんですけども、住宅課のほうも大変のようなんですけれども、夜中2時頃「わんわん」と鳴くから、うちの住宅は、市営住宅は、隣近所、生活騒音は聞こえないように作ってあるんですけど、なぜか犬の鳴き声だけ聞こえるのはどうなのかと思うんですけども、「ちょっと頭が痛くなる」と言って、ひとり暮らしの男性なんですけど、そういう苦情も来ているんで、住宅課のほうでも前にも相談したら、なかなか行って、万一、犬がいなかったらどうだと言われるということで、それで、住宅の方の玄関の前を教えますから、来たら「わんわん」と鳴くんだよね。それを確かめて、是非、注意というか、「飼えないんだよ。」ということをお願いしたいんですけども。

○司会 はい、分かりました。今、回答いたしますので、少々お待ちください。

◎住宅課長 住宅課長の深藪と申します。よろしくお願いいたします。

市営住宅のほうの入居する決まりでですね、ペットは飼ってはいけないということを入居の方に誓約をしていただいて、そういった形で入居していただくということで、決して、許可、市のほうで許可したりだとか、というのはあり得ることではないですよ。

そういった情報をですね、私どもにいただければ、個別の対応ということで、指導なり、その方と対応してまいりますので、ちょっと個人的なことにもなりますので、後ほどお話を伺って、対応させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、そのほかにございますか。今、マイクをお持ちします。

◆市民 船見町内会の■■■■と申します。いつも市の方には大変いろいろとお世話になっております。

町内会の公園なんですけれども、今年度も周りの草のほうを刈ってはくれたんですけども、中のグラウンドというか、土の部分ですね。その雑草がひどくて、近所の方とかも、遊具の周りとかも、随分、くわとかを持ってきて、きれいにはしてくれているんですけども、全然、もう全体がひどくて、今年度も自転車教室をやったんですけども、何とかできたんですけども、去年とかも、私も近所の方と一緒にやったんですけど、やっぱり個人でやるには限界があるので、今もひどい状態なんですけれども、一度、見に来ていただいて、来年度とかもどのような形になるのか、公園で何か行事をやるといっても、ちょっとあれだったらラインを引いたり何なりするのも、ちょっと厳しい状態なんですよ。

確かに子供たちが遊んでいる姿もあんまり見かけないので、草もぼうぼうなんですけれども、そういう部分、ちょっと検討させていただきたいと思います。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎緑地公園課長 緑地公園課の成田と申します。

公園の草の関係でございますけれども、後ほどちょっと場所のほうを確認させていただきまして、現地を確認させていただいた後に、対応につきましても検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、そのほかにもございますか。

そうしましたら、真ん中の女性の方、お願いいたします。

◆市民 末広の■■■■といます。

これは、要望なんですけど、テレビで見ていると、釧路の町はですね、何かあそこは涼しいらしくて、本州の人が夏だけやってきて、市が空き家とか、そういうところをひと月ごとに貸して、呼び込むというんですか、外からの。だから、苫小牧も涼しいですから、夏は。できたら、そういう本州からの人を呼び込むような手だてというんですかね。そういう働きをされているのかどうか。釧路の市にも、ちょっと行って相談したりとか、そういう交流はやっているのでしょうか。それをちょっとお聞きしたいなと思っております。

そうしたら、もうちょっと税収というか、外からのお金も入ってくるし、町も潤って、少しは活性化するし、苫小牧でしたら札幌までも行きやすいですし、そういう飛行場にも近いし、そういうアピールするような働きかけをなさっているのか、そのところをちょっとお聞きしたいです。

○司会 分かりました。なかなか難しいかと思っておりますけれども、よろしくお願いいたします。

◎総合政策部参与 貴重な御意見、ありがとうございます。正に今おっしゃっていただいたことが、苫小牧の優位性としてですね、我々もそこをPRしていきたいなと思っております。

それで、今、おっしゃっていた釧路はお試し移住ということで、1か月間だけ来ていただいて、泊まって、将来的には移住していただきたいという政策をやっています。ほかにも何か所か道内でもやっている町があるんですけども、我々も一時そういうことを検討していた時期がありました。実際、釧路にも行ってお聞きしたんですけども、実際には1か月泊まって、戻られて、その後、一人もまだ移住されていないということなんですね。

それで、1か月間家賃を市で負担したりということがあるものですから、費用をかけて実効性があるかというところで、なかなか苫小牧市としては踏み切れていないという状況なものですから、まだまだですね、そういうことは、確かにですね、移住という部分では有効だと思っておりますけれども、なかなか効果が表れていないという全国的な事例があるものですから、そこをもう少し研究してですね、そこで効果があるようであれば、我々、苫小牧市も是非、取り組んでいきたいなとは思っているんですけども、まだちょっと研究の段階ということで、御理解をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、そのほかにもいらっしゃいますか。こちらの男性の方、お願いいたします。

◆市民 澄川町から参りました、■■■■と申します。

防災無線の更新についてお尋ねしたいのですが、防災無線デジタル化ということで、財政的にも大変な中、お取り組みされるということで伺っているのですが、過去、大雨のときに防災無線が聞こえない。北海道ですと、高気密断熱住宅ですか。あと、三層ガラスとかということで、家

にいる方々は聞こえないというお声も、ほかの町で伺ったことがあります。

一方で、去年ございましたような、ああいう大震災のときに、上下水道の方が、大変、御苦労されたと思うんですけど、デマが流れてですね、市民の方々も、随分、振り回されたんですけど、情報がやはりこちらから、市民のほうが取るといよりは、市役所様から発信していただくような、これが分かりやすいような形でしていただくと大変助かるんですけども、たまたま、私は別の仕事で郡部にお邪魔したんですが、そのときに個別の端末を設置されていて、町の情報とか、災害情報、天気予報とか、峠の情報ですね。そういうものがデジタルというか、画面で見ることができます。

例えばそういうものとか、お隣の安平町では、あびらチャンネルというテレビですね。よくお使いなれたテレビを利用して、通常、町の情報とか、災害時には何かしらの表示がされるようなんですけど、いずれも停電になってしまうと難しい問題はあるんですけども、こういうものを例えば御導入されるということになると、例えばどうですかね。高齢者とか、動けない方々を優先的に付けていただいて、若い方はフェイスブック等で御発信いただける情報、アクセスすればいいわけですから、そういうようなところを御検討、防災アンテナ1本でというのは、ちょっとなかなか大雨のことを考えると、市の職員の方、最後、広報車で回って、「やっぱり聞こえなかったぞ」ということで、こういうミーティングのところで、市の方が大変な思いをするのもどうかと思います。まして、御質問させていただきました。

御検討の状況をちょっと教えていただけるとありがたいです。以上でございます。

○司会 お願いいたします。

◎危機管理室主幹 防災を担当しております、前田と申します。

御発言ありがとうございます。今、いろいろと去年の胆振東部地震の際に、情報という中で、大変、苦労を我々もしたんですけども、今、おっしゃったこと、ほとんど当たっているお話でして、今、苫小牧市では、防災行政無線という屋外スピーカーですけども、樽前山の防災の関係で西側の地域に付いているという状態です。

その後、東日本大震災なんかもありまして、防災ラジオというものも導入をいたしました。いろんな災害がある度に、様々な情報の媒体を付けてはきたんですが、津波であれば全市の問題、去年の地震も全市の問題、あるいは平成29年に弾道ミサイルが発射されたということで、国民保護の問題とかもありまして、その際にこういった情報を的確に皆様に届けるかということが大きなテーマとなっています。

そういった中で、今、私どもが検討しておりますことというのは、先ほど申し上げました防災行政無線、先ほどデジタル化というところもキーワードをおっしゃっていただきましたけども、今、アナログの無線をデジタルにしなければならないということもありまして、そのことと併せて、今、西側に付いている屋外スピーカーを全市に展開したいということで、今、検討しております。予算とかの問題もありまして、まだ決定はしておりませんが、何とか屋外スピーカーを全市に展開をしたい。それと併せて、それだけでは足りませんので、個別の受信機というものを災害弱者の方にも配る手だてはできないかということなんかも考えております。

さらに、併せまして、これはもう既にやっているんですけども、やはり気密性の高い北海道の住宅事情がありますので、そういう広報車の声ですとか、スピーカーの音声が聞こえなかったときにどうするかということだと思いますと、先ほどおっしゃっていただきましたけども、例えばスマートフォンで文字情報で同じ情報を確認することができる。あるいは、電話番号、そういったテレホンサービスなんかもやっておりますので。ある電話番号にかけますと、その情報を聞くことができるような、いろんな形でもって、何とかですね、私どものほうから発信する情報を届けたいというふうに思っております。

そのために、今、防災行政無線の拡大というものを検討している状況でございます。以上です。

○司会 よろしいですか。

◆市民 はい、分かりました。

◆市民 関連して。末広の■■■■と申しますけど、防災無線と言われましたけども、苫小牧にはHBCのアンテナがありますよね、高丘に。あのアンテナ、HBCじゃなくて、借りるとか、そういうことはできるんですか。それを利用すれば、NHK、民放ですけども、それは誰でも民放を聞けばいいと。NHKが一番いいのかどうか分からないですけども、確実にいくんじゃないかなという気がしますけど。

◎危機管理室主幹 今、例えばHBCの既存のアンテナというお話があったんですが、今、私どものほうで、ちょっとそのHBCのアンテナというところの検討は、すみません、してはいなかったんですけども、やはり電波を確実に届けるためには、どんな方法がいいかというところで、今、私たちが考えているのは、携帯電話の通信網です。

具体的にいうと、NTTの通信網なんですけど、これでありまして、今、大体、家の中どこでも、外でも携帯電話が使えるようになっていると思いますので、これが一番確実ではないかということで、その確実性というキーワードの中で、今、携帯電話網を使って、防災行政無線を拡大したいということで、今、検討をしている状況でございます。

◆市民 それは、携帯は消費電力が大きいですから、誰もが消費電力はやっていないですから、割と持っている人も多いから、

◎副市長 副市長の佐藤でございます。市民生活の危機管理のほうも、私が担当しておりますので。

民間の、例えばHBC、NHK、STVとか、確かにラジオ放送をやっている、あれに乗せられるかという、周波数とか、電波が強くて、

◆市民 NHKかHBCのアンテナが高丘にありますよね。

◎副市長 ありますよね。

◆市民 だから、それは利用できないのですかということ。

◎副市長 そのものをですか。

◆市民 それに乗せてもらえないのかと。

◎副市長 電波を使うことは、ちょっと難しいです。ただ、ああいった塔のところにスピーカーを付けるということではないですね、電波そのものですよ。

それが、例えば周波数だとか、電波の強さが違うんで、それは一緒に乗せるということはちょ

っと難しいと思いますね。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、そのほかにいらっしゃいますか。■

◆市民 市長もいらっしゃるし、鈴木知事はいらっしゃらないんですか。

I Rのことについてですね、新聞で見ましたり、市長の声もテレビに映って聞いているんですけど、きょうまでの経緯というか流れ、将来どういうふう間違いなく苫小牧に来るとか、そういうのをちょっとお聞きしたいんですけど。

◎市長 統合型リゾート I Rについての御質問であります。

今までの経緯についてであります。今、日本で初めて法律ができて、そして、国では最初に全国で3か所、国がこれを決めます。それに対して地方がですね、国に対して申請できるのは、都道府県と政令指定都市だけということになります。ですから、苫小牧市が I Rについてのチャレンジをしたいということで、私の3期目の選挙公約から市民の皆様に訴えてきたんですが、その後、法律ができて、苫小牧市が国に申請できないんですね。ですから、今、北海道が、今、苫小牧と釧路と留寿都が一応、関心を示しているんですが、知事がまだ判断をされていません。知事が判断をし、同時に、この3地区のうちに、苫小牧と指名していただけるかどうかということが、当面、一番の我々の関心事ということになります。

北海道が、知事が表明し、あるいは苫小牧ということが決まって、国に申請をします。それは全国から上がってきますから、そうすると国のほうでですね、さまざまな状況を確認し、3か所を決めるということになりますので、まだまだ知事の表明が北海道はしていませんから、我々としても、それを見守っているということです。

ちなみに大阪、あるいは横浜、長崎、和歌山、そして、北海道というところが熱心に活動しているのではないかと現在の状況でありますけれども、例えば大阪、あるいは横浜は、大都市型の統合型リゾートということになります。

それに対して、例えば長崎とか北海道は地方型という、事業モデルがやっぱり随分違ってくると思います。そういう意味で、北海道が今、外国の旅行客がどんどん、どんどん増えていますけれども、このままですね、ずっと増え続けるかということ、そうはなりません。やっぱりいずれピークアウトしてしまいます。

そのために、北海道には、やっぱり、まだまだ I Rも含めて幾つかの、私は装置という言葉を使っているんですが、施設が必要になってくるのではないかと。日本が人口減少ということは、経済のパイが縮んでしまうということになります。一方で人口減少、特に生産年齢人口の減少が顕著になっています。何とか、例えば苫小牧で市民サービスを劣化させないように、人口が減って、税収が減っても市民サービスを劣化させずに、御苦労いただいた世代の皆さんには住みなれたところで元気に過ごしてもらおう。あるいは、若い人たちには、できれば地元でチャレンジしてもらおう。そういうまちづくりというものが、今、時代が求めていることだというふうに思いまして、特に観光分野は、ほとんど外に今まで雇用を求めて流出している若い人たちがたくさんいます。できれば地元でそういう、私は良質な雇用の場をたくさん創っていくことがですね、人口

減少時代に向けたキーワード、雇用がキーワードという言い方を議会でもさせていただいています。

そういう観点から、私もこの町で生まれ、この町で骨を埋める一人でありますけれども、この町の次の世代のためにですね、できれば、親元の近くで自分の人生チャレンジしたいと思ってもらえるような苦小牧を、これから、やっぱりチャレンジしていきたいなど。そのための手段の一つが統合型のリゾートということで、是非。先日、市議会で決議をされました。決議だけで苦小牧が決まるわけではありませんので、この次は北海道知事の決断がいつ、どういう状況で、どうなるか。それから、そのときに苦小牧が指名を受けるかどうかというところを見守っていただきたいと思います。

○司会 はい、そのほかに。

◆市民 そうしたら、もう、積極的に市長のほうから鈴木知事よろしく言ってください。

○司会 そのほかにございますか。

後ろの男性の方、お願いいたします。

◆市民 新中野の■■■■と申します。

私は、市の交通安全指導員をやっておりまして、だんだん会員になってくれる人が減ってきました。前回の改選期では150いたんですけども、今回、来年度は改選期ですけども、120ですね。もう既に交通安全会の会長のほうに、来年度はうちの町内会からは出せないからという、もう既に、そういう話が出てきています。

また、今度は年金が65から支給になってくると、なかなか交通安全指導委員会に入ってくる人が居りませんね。

やっぱり交通安全をされていて一番辛いのは、やっぱり小学校、中学校で年間200日、通学、学校は指定がありますよね。その200日のまず8割方は交通指導員が実施をしているということもね、雨の日、風の日、雪の日もやっていますので、そういう関係でやってこれる人がだんだん減ってくるのかね。だから、それは、やっぱり推進委員会だとか、交通安全の事務局だとか、交通安全指導委員会の会員の幹部たちとね、1回どういうふうにしたら増えるのか、どういう方法があるのかということ、1回検討する場を持っていただきたいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○司会 ありがとうございます。それでは、よろしく申し上げます。

◎安全安心生活課長 交通安全を担当しております、安全安心生活課、小泉です。日頃、指導委員会の皆様方には、交通安全にさまざまな御協力をいただきまして、この場をお借りして、感謝を申し上げます。

今、■■■■さんからございました次期改選期に向けてですね、我々としても、何か待遇ですとかね、なり手、なっていたりの方の募集の仕方ですとか、そういったところも含めて、今後に向けて検討を始めているところがございますので。また、指導委員会の方々にもですね、いろいろと御相談をさせていただきながら、一緒に協議していければと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会 よろしいですか。それでは、そのほかにいらっしゃいますか。

◆市民 末広の■■■■と申します。

度々、あれなんですけども、やっぱり町を良くするためには若い人が多くいるということが大事だと思うんですけども、例えば夏だったらアイス甲子園ですか。ということで、いろんな高校生が競技をしていますよね。そのためにいろいろ市内の高校生とか、小学校、中学校もいろいろそこに入りたいという感じがするんですけども。

例えば12月から2月まである、駅前イルミネーションをやりますよね。あれを、例えば小学校、中学校、高校、専門学校もあります。そういう興味のある人に出展させると。市内じゃなくて、今度は全国的にするというようなアイデアとか、そういうのはお持ちなんですか。

○司会 イルミネーションの拡大も含めた市の考え方ということですね。そういうのを活用したまちづくりとか、

◆市民 何々甲子園とか、結構、甲子園とかありますよね。ですから、スケートのところですから、そういうのを作ったほうが面白いんじゃないかなという私の考えです。

◎市長 分かりました。

昨年、初めて取り組んだ駅前イルミネーションです。やっぱり駅前、いろんな、あまりいい話がないものですから、文字どおり駅前を明るくしようということで議会から提案があつて、取り組んでいることであります。ことしもやります。いろんな御意見も聞きながらですね、進めていかなければならないなというふうに思っていますし、あの期間中ですね、いろんな皆さんが来て、写真を撮ったり、いろいろ楽しんでいただいています、もっと拡大してほしいと。あれ、すごい金がかかるんですよ。

◆市民 拡大じゃなくて、参加ができるような、もうちょっと参加ができるような形に。

◎市長 参加等についてはですね、いろんな御意見は昨年いろいろいただいています。ただ、あんまりたくさんの人たちでやると收拾がつかなくなるぐらいに、皆さん、いろんなあれがあつて、意見はいただいています。そういう意見を含めながらやっているんですが、どうしてもグロスの予算というのがあるものから、その予算内で収めなければならない。

◆市民 実際、工事をしたところは、苫小牧、工事じゃなくてデザインとか何かをしたのは、苫小牧の業者じゃないんですよね。帯広なんですよ。

◎市長 複数からいただいて、

◆市民 ですが、帯広が入札して、工事は苫小牧がやりましたけども、もうちょっとですね外部にお金を出すじゃなくて、こんなことは女々しい話ですけど、

◎市長 地場活、

◆市民 はい。をしていただきたいということです。

◎市長 分かりました。

そういう業者さんがいればいいんですけど、なかなか手を挙げてチャレンジするという会社さんがなければ、幾ら我々が募集しても、なかなかないという難しいところもあろうかと思いますが、ああいう駅前イルミネーションのようなものでもですね、建設、建築だけではなくて、やっ

ぱり地場活をもうちよっと考えてやれという御意見ですね。承りました。

今回、必ず一者特命でやるということは、市役所はありませんので、必ずいろんなところにオープンにして、いろいろいただいて、その中で決めるというやり方をやりますので、注意しながらやっていきたいと思います。

◎司会 それでは、お時間のほうもそろそろ近付いてきておりますけれども、なければですね、こちらのほうで終了したいと思いますけれども、どうでしょうか。よろしいですか。

それでは、こちらのほうでですね、意見交換を終了させていただきます。

終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 たくさんの御意見、あるいは御質問をいただきまして、ありがとうございました。

具体的にですね、例えば公園の話がありました。そういう話はどんどん声を届けていただきたい。すぐ見て、できるものはすぐやります。できないことは時間をくださいということがあろうかもしれません。

特に公園はですね、我々ごみの問題と一緒に街の景観美化という運動に取り組んでいますので、公園もですね、そういう意味で子供たちが遊びやすい、あるいはお年寄りが休みやすい、そういう公園づくりを心掛けなければならないなというふうに思っていますので、是非、市役所、緑地公園課、成田まで、何かありましたらどんどん声を届けていただきたいなと思います。

実際に見させていただいて、余りにもひどければ処置をしますし、できないことはできないということもありますけども、声を届けていただくことは大事かと思えます。

もう一つはですね、一番最初に幼児教育の無償化の問題が出ました。これは御案内のとおり、ことし10月からという、今年度は非常に中途半端な年度設定ですね。来年からフル年度で始まることになります。

やっぱり、あと2年ぐらい状況を見てみないと、なかなか分からないところがあって、我々の市の負担もこれからどうなるかというのは、今年度だけではまだ見通せないところがありますので、我々も地元のそういう法人がどうなるかということは、常に注視しながらやっていかなければなりませんし、市全体としてもですね、少なくとも、あと1年、あと2年、状況を見ながら子育て世代にとってどういう制度なのかということをしっかりチェックしながら、見ていきたいなというふうに思っています。

最後になります。移住の話が出ました。これは、日本の中で一番最初にこの取組をして、非常に成功していた町が伊達市なんですね。東日本大震災のときに東北で非常に災害が発生して、あそこのイチゴ農家が伊達に来て、今、非常にうまくやっていますけれども、そのずっと前から伊達はリタイアされた人たちが来ていたんですね。

それはそれで一つの方法なんですけど、こういう言い方をすると、非常に失礼かも分かりませんが、10年ぐらいたつと市の持ち出しのほうが多くなっちゃうんですね。生産年齢人口だと、働いて税金を納めていただけるので。そうすると、やっぱり時間がたつと、非常にどうなのかという議論が一方であることも事実です。

苫小牧は、できれば生産年齢人口にどんどん、どんどん流入してもらおう。苫小牧は、かつて、

それで大きくなった町であります。炭鉱が閉山になって、空知からたくさんの人たちが来て、苫小牧の港づくりを支えてくれた。僕らの世代でも、その経験が非常に鮮明に覚えていますので、これからもですね、できれば生産年齢人口、涼しい北海道でチャレンジしたいという本州の若い人たちを呼び込めるような雇用の場がこれから必要になってくるのではないかというふうに。できれば、地元の人と結婚してくれれば、これは最高なんです。

今、そういうところがあるんです。苫小牧でも、ノーザンファームがそうです。全国の牧場の次男坊、三男坊が来て、世界一速い馬づくりを吉田さんが今、やっている。そこで、本当にたくさん来ています。ほとんどが本州の若い人たちであります。

ただ、あそこにいる、住んでいるのは、苫小牧は非常に少なく、やっぱり安平か千歳に住んでいるので、できれば苫小牧のほうに来てほしいなって。本当に若い人たちが、あそこで速い馬づくりにチャレンジしているんですね。

そういう事例が我々身近にありますので、十分、これから参考にしながら、若い人たちにとって魅力のある苫小牧づくりができるかどうかというのが、一つ問われているのではないかなというふうに思っています。

最後まで御熱心にお付き合いをいただきましたことを心から御礼を申し上げまして、御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。本日はありがとうございました。